

広島大学における ELSI/RRRIの実践とURAの役割

澤井 努

広島大学大学院人間社会科学研究科

本日の内容

広大ELSI/RRIとURA

自己紹介：これまでの研究

広大のELSI/RRI実践

過去

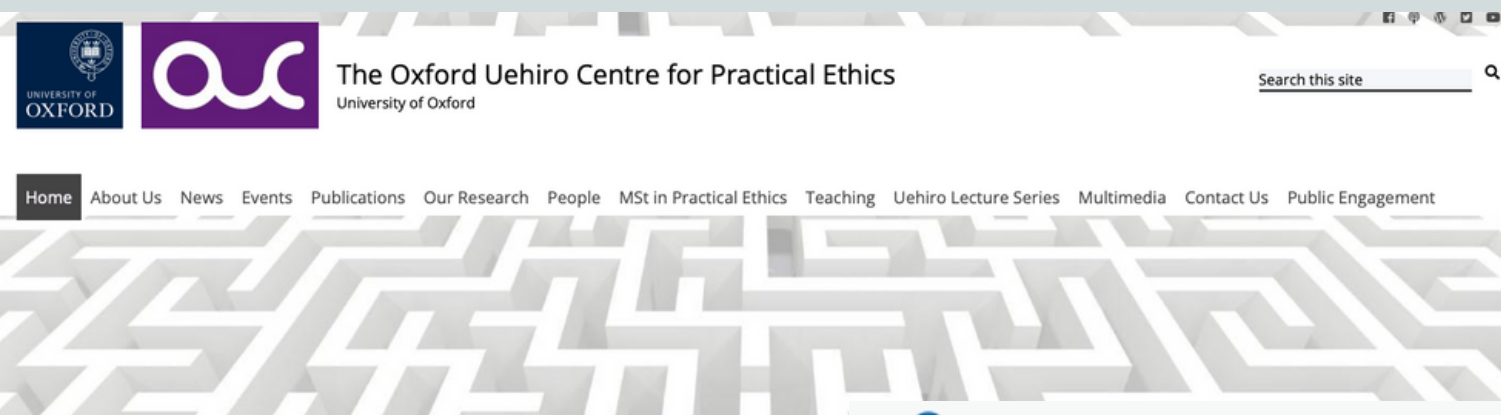
現在

未来

ELSI/RRI実践とURA

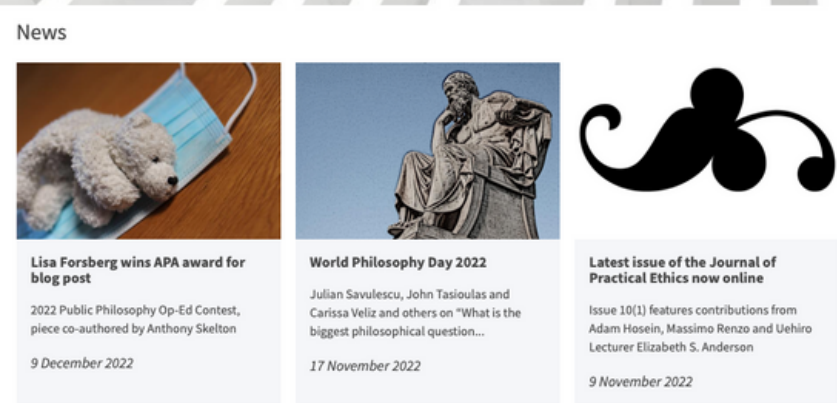
質疑応答

自己紹介(2012-2022)

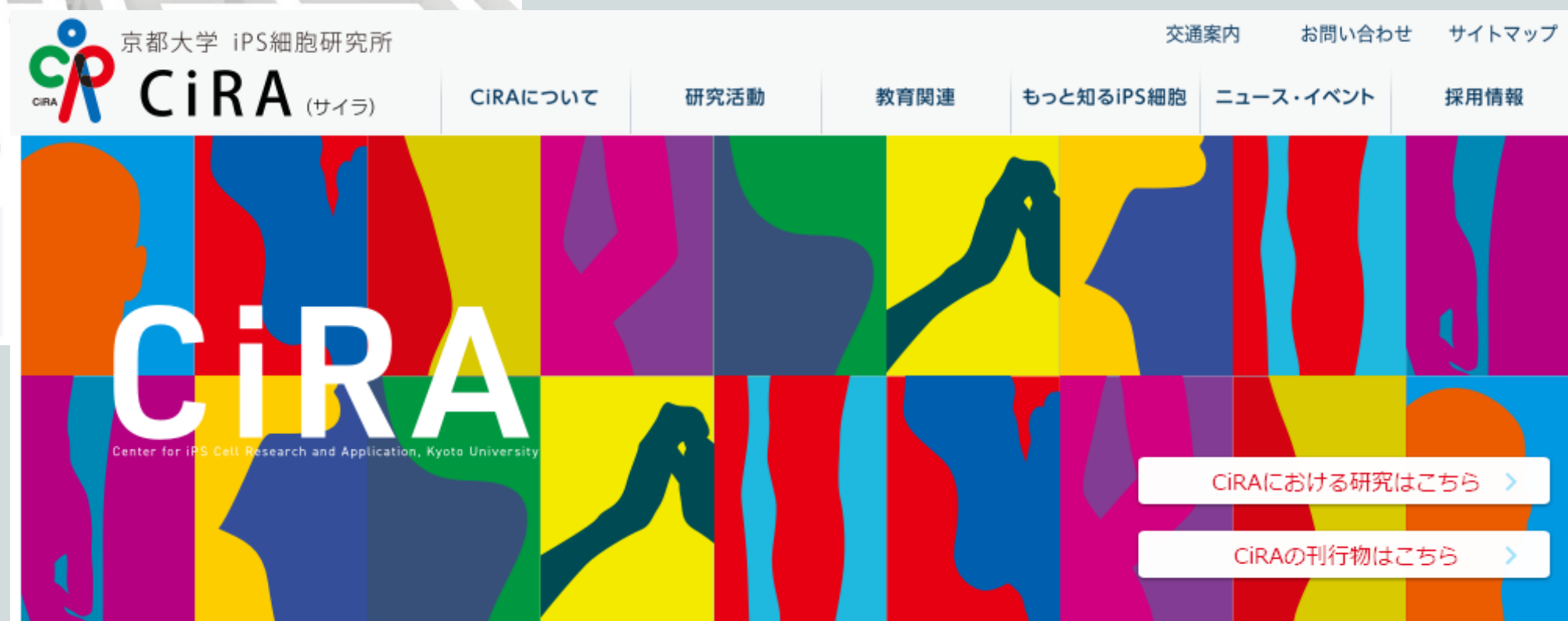


2012-2013

2014-2019



<https://www.practicaethics.ox.ac.uk>



<https://www.cira.kyoto-u.ac.jp>

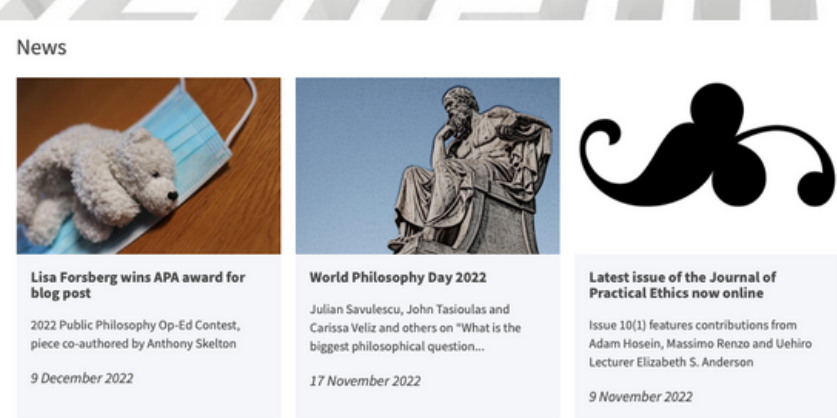
自己紹介(2012-2022)



2012-2013

2014-2019

2019-2022



<https://www.practicaethics.ox.ac.uk>



<https://www.cira.kyoto-u.ac.jp>



ASHBiのミッション&ビジョン

多分野融合研究により、
ヒトの設計とその破綻機構を解明

<https://ashbi.kyoto-u.ac.jp/ja/>

自己紹介(2022-)

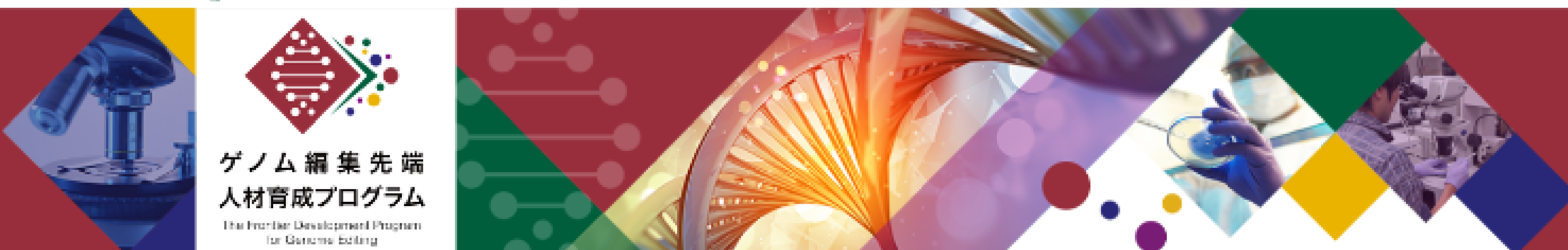
2022-現在

<https://www.mls.sci.hiroshima-u.ac.jp/smg/ge-innovation/index.html>



広島大学 卓越大学院プログラム

English

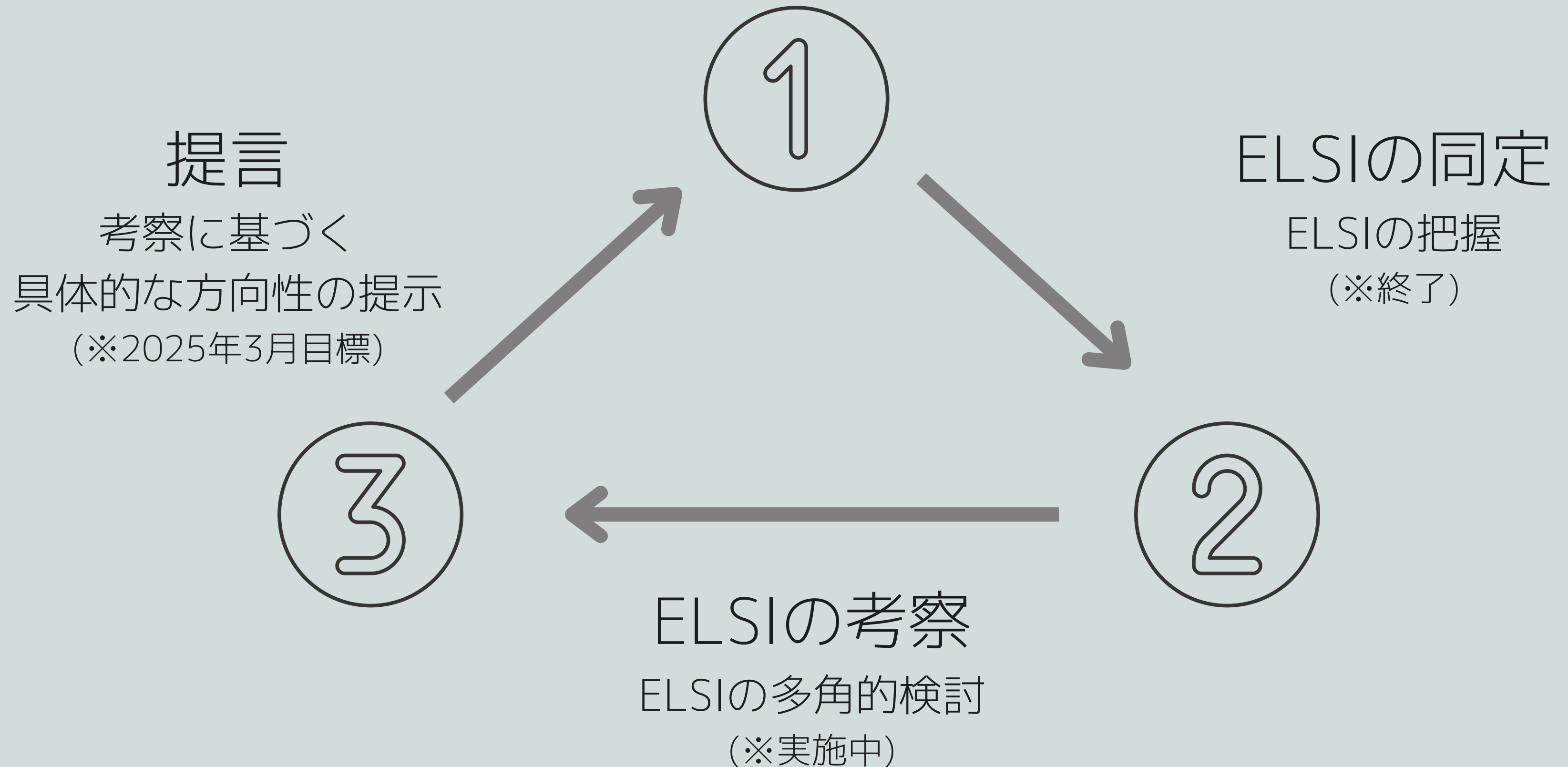


ゲノム編集先端
人材育成プログラム
The Frontier Development Program
for Genome Editing



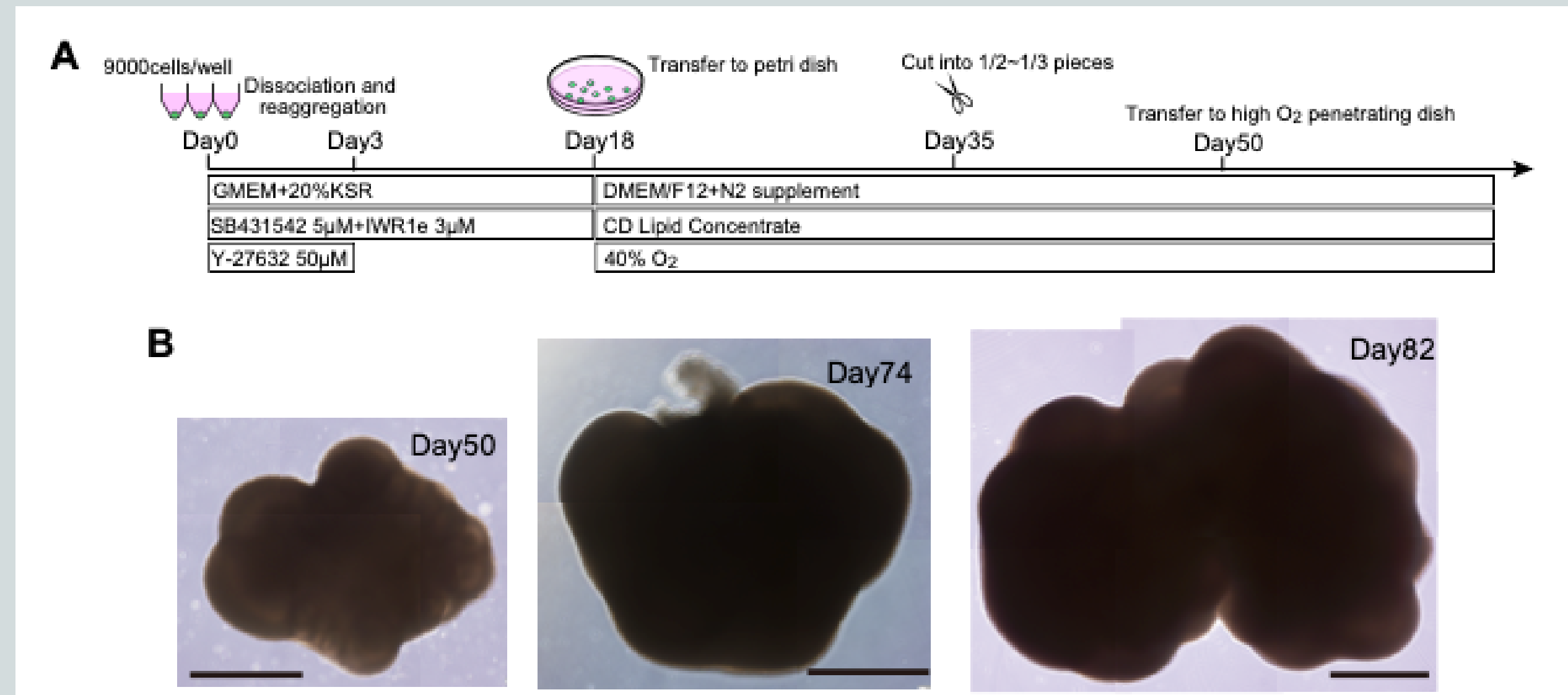
<https://genome.hiroshima-u.ac.jp>

ヒト脳オルガノイド研究のELSI (2021-2025)



脳オルガノイドとは

ES細胞やiPS細胞など多能性幹細胞から分化誘導された、
生体と類似の構造を持つ三次元脳組織のこと

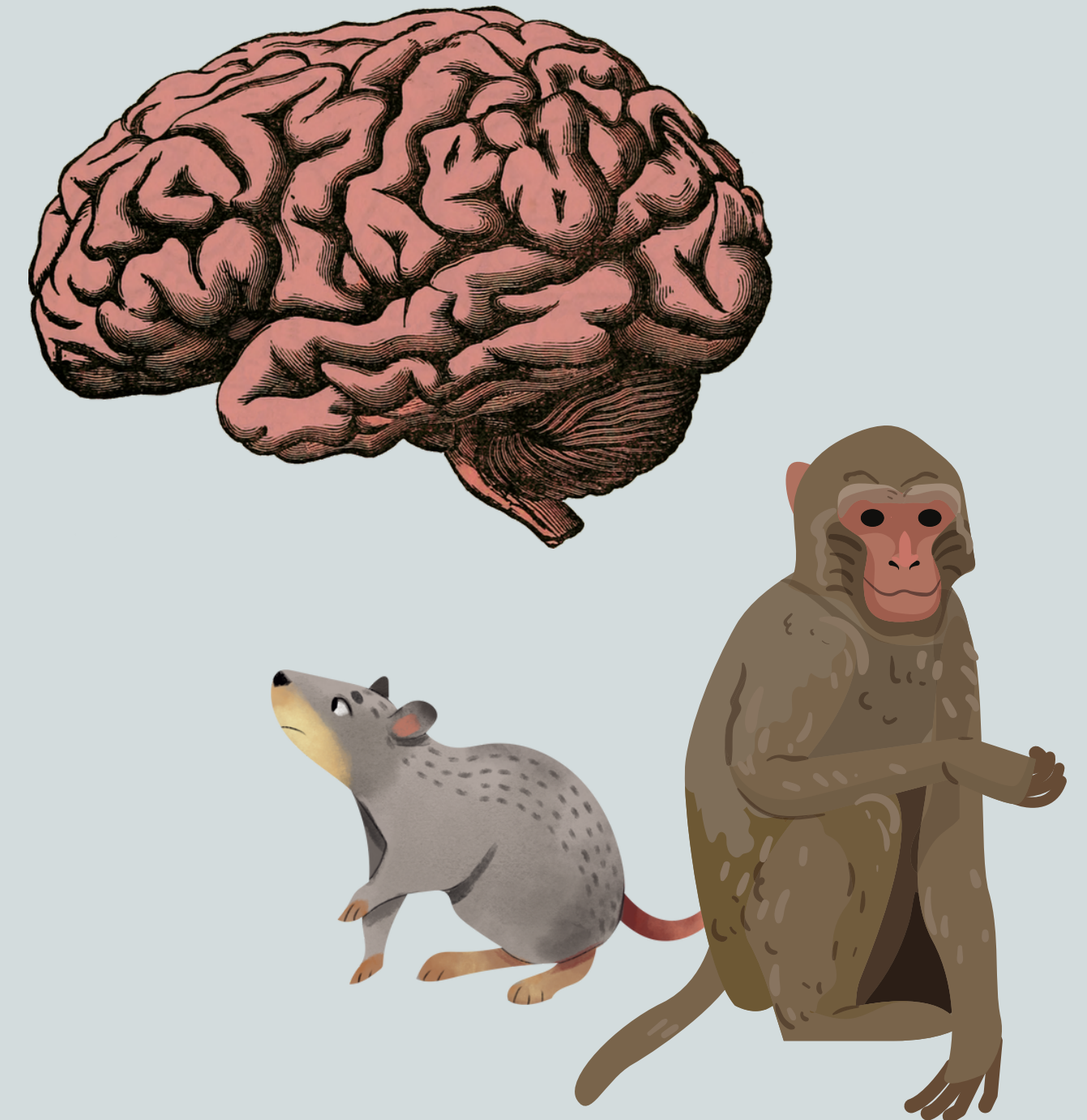
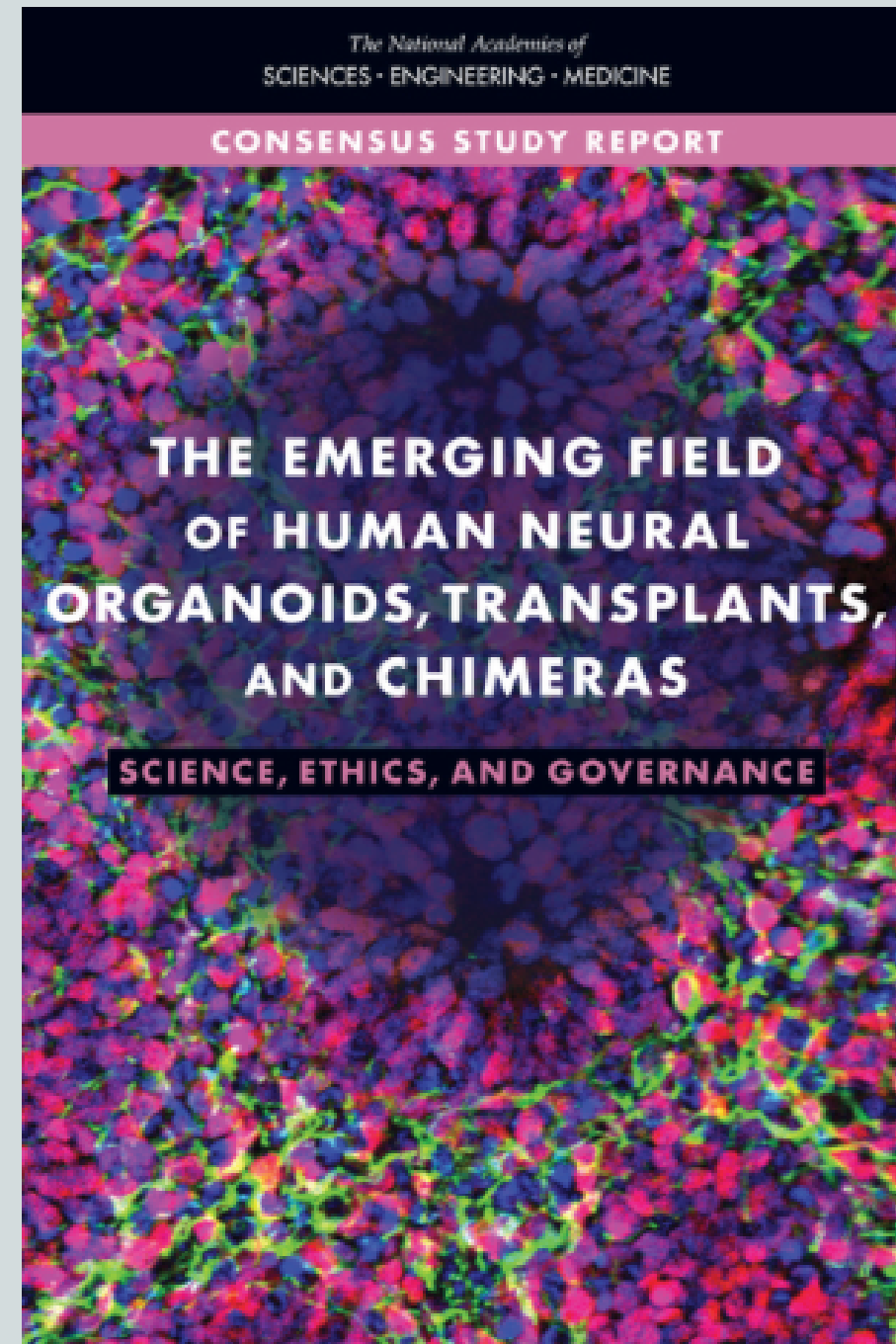
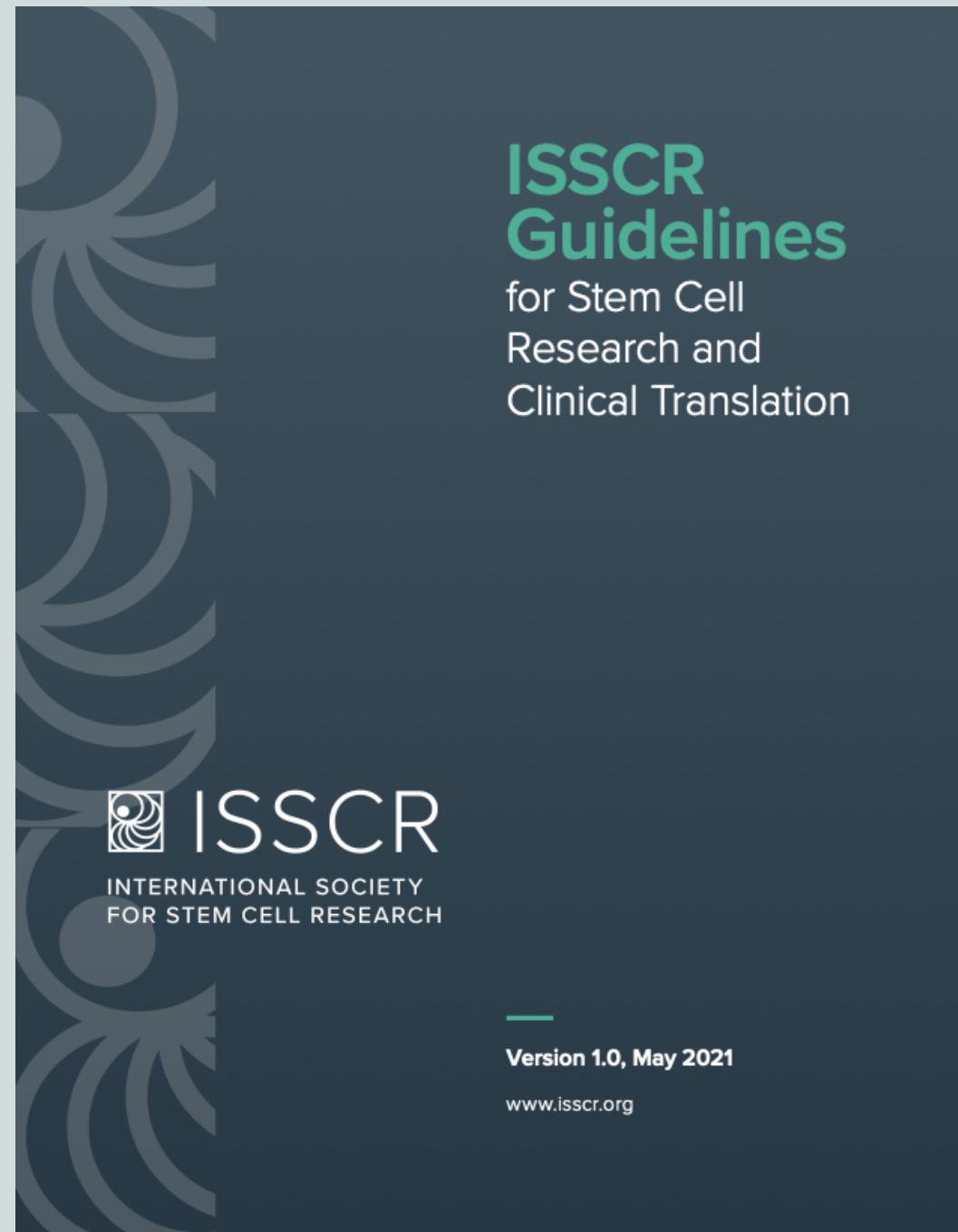


脳オルガノイドの応用



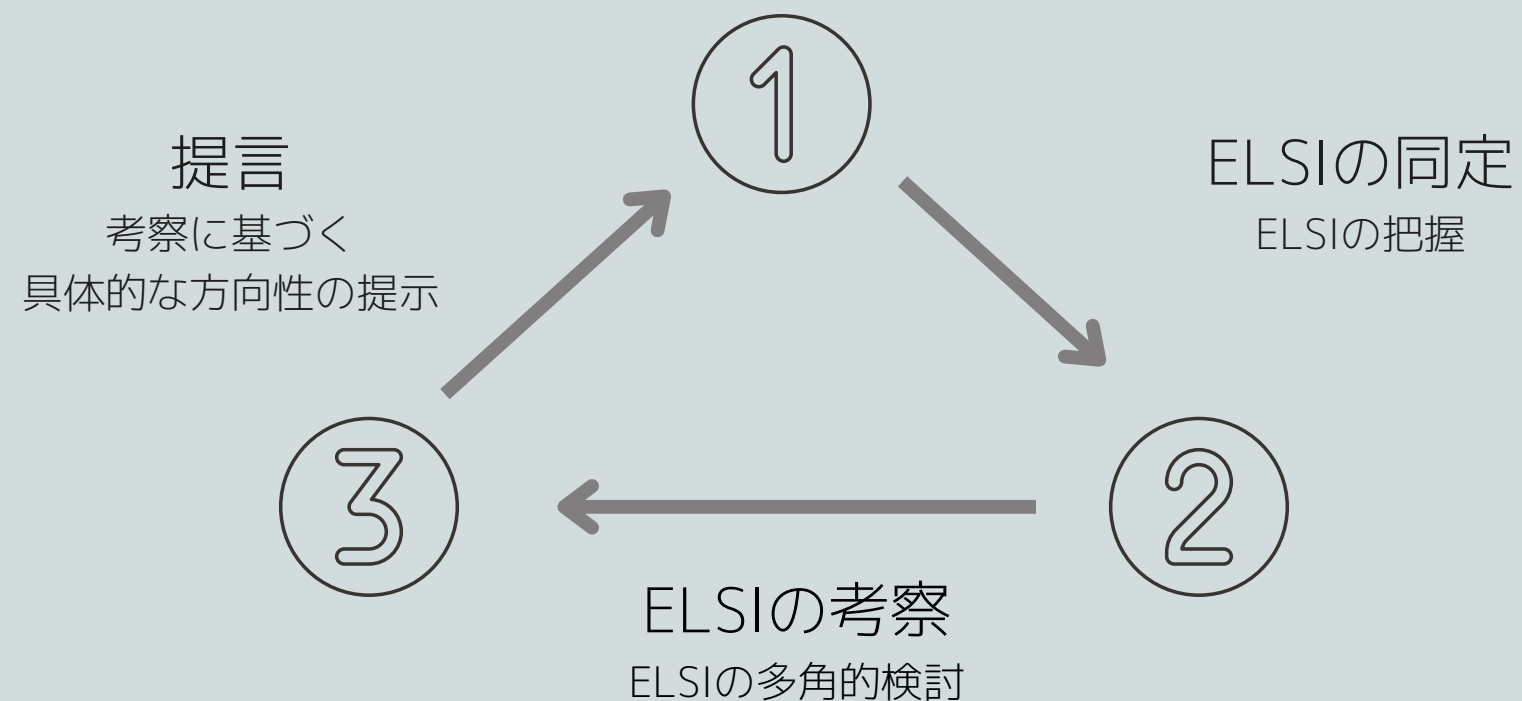
- 基礎研究
- 病態解明
- 創薬・治療法の開発
- 再生医療

倫理・規制への国際的関心の高まり



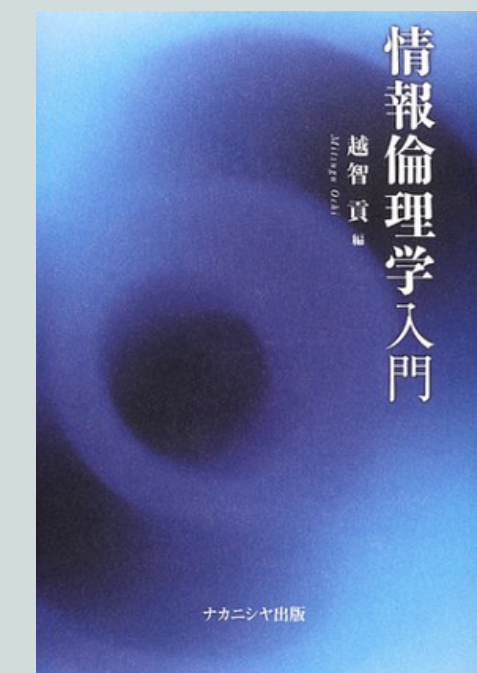
ヒト脳オルガノイド研究のELSI(2021-2025)

- 哲学的・経験的生命倫理学
 - ―「哲学的に妥当で、社会にも受け入れられるような規範・結論」を導くこと
≠「ELSI/RRI」
- 本PJ目標は倫理的枠組みの提言
 - ―そのために必要な理論・実証研究をしている(人材育成は射程外)



広大のELSI/RRRI実践

過去



- 「情報倫理の構築プロジェクト」(1998-2003、代表：水谷雅彦先生)
 - 日本学術振興会 平成10年度未来開拓学術研究推進事業／
京大大学院文学研究科、広島大学文学部、千葉大学文学部が研究委託先機関
- 広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター（2003-、現センター長・後藤弘志先生）
 - 「平和／和解の構築」をテーマに海外と連携（ミュンスター大学、フランクフルト大学、シカゴ大学）
 - 『ぷらくしす』（同センター成果報告書、1998-）
 - 複数のプロジェクト→書籍出版

広大のELSI/RRRI実践

現在（2022年度）

- 大型プロジェクトへのELSI/RRRI支援
例）ムーンショット型研究開発事業目標9(Awareness Music による「こころの資本」イノベーションと新リベラルアーツの創出、代表：山脇成人先生)への参画
- 小林信一先生の指揮下、「ELSIユニットタスクフォース」発足(2022.11)
 - タスクフォース主催・共催の国際ワークショップ、セミナー
 - 次年度新規開講科目の準備（広島大学ゲノム編集先端人材育成プログラム）
 - ELSIセンター(ELSI Hiroshima)設置準備

広大のELSI/RRRI実践

未来（2023年度発足の「ELSIセンター」）

- 共創科学基盤センター（ELSIセンター／ELSI Hiroshima）
 - ― 社会共創基盤部門…研究
 - ― 基礎研究支援部門…研究者支援
- 部門の役割
 - ― 既存・新規プロジェクトへのELSI/RRRI支援
 - ― ELSI/RRRI関連プロジェクトの推進
 - ― ELSI/RRRI人材育成
 - ― ELSI/RRRI関連動向の分析等

ELSI/RRRI実践とURA

様々な制約下で、研究者は(何のために)何を・どこまでやるか／できるか

- 様々な制約
 - 時間(特にコアに参画する研究者の時間)
 - 人(そもそも関心を持つ研究者が減っているか、元からいない／適任の[若手]研究者がいても諸事情により雇用できない)
 - 経費(特に人件費)
- 研究者は(何のために)何を・どこまでやるか／できるか
 - ELSI論点抽出、社会調査、情報発信、人材育成（例：阪大ELSIセンター）

ELSI/RRRI実践とURA

研究者／プロジェクト、ELSIセンター

- 研究者／プロジェクト
 - ―実施前：申請書作成、ネットワーク構築支援・マッチング等
 - ―実施中：情報発信等
- ELSIセンター
 - ―上記項目＋ α を体系的に実施・可視化（記録）

→多様な背景を持つURAの方々がいかにコミットするのか／できるのか
（例：研究提案、研究参画という形まで踏み込むのか）
＋いかに持続可能な形でコミットするのか／できるか

質疑応答

ご清聴有難うございました